

## パッチ・アダムス

って知ってる？みんなが生まれる前の映画だから知らない人も多いかもね。これは病院に長期間入院している子どもたちを励まそうと、赤鼻をつけてピエロになって現れ、少しでも子どもたちの苦しくて辛い闘病生活に楽しみを届けようとした人の映画なんだ。ロビン・ウィリアムスって人が主演だった。このおじさんはコメディによく出てたけど、それだけじゃないシリアスな役もこなす、素敵な俳優さんだった。亡くなってしまったけど…。

この『パッチ・アダムス』が日本にもいるんだよ。この前行った研修会で、この日本のパッチ・アダムス、昭和大学病院の院内学級(病院の中にある特別支援学級のこと)の先生をやってる副島賢和先生のお話を聞いた。先生は子どもたち一人ひとりの病状や背景などを考慮しながら、楽しく学べて子どもが日頃ずっと我慢している負の感情の出し方を一緒に考えてあげてる。入院してる子は、いっぱいいっぱい我慢を背負ってるんだ。また自分が病気だから家族に迷惑をかけてるとも思ってる子が多いんだって。病気になりたくてなったんじゃないのにな。

副島先生は私たちにとっても優しくかった。講演の最後にピエロにもなってくれた。おどける姿を見て、つい笑ってしまうけど、その後に私はすごく悲しくなっちゃった。ピエロの仮面に隠された悲しみが透けて見えた気がした。病気の子どもたちにかかわるって、すごく勇気がいると思う。先生と退院の時にある約束をした子は天国に旅立ってしまった。そんな子どもたちの夢や願いを抱えながら、先生は今日も子どもたちと真剣に向き合い続けている。

## キミの「幸せ」って何？

幸せってどういうことか考えたことある？  
キミにとっての幸せってどんなこと？  
左に書いた院内学級のある男の子の幸せはね、「学校に行けること、ご飯が食べられること、空が青いこと…」確かそういうことを言っていたと思う。

『世界の果ての通学路』って映画見たことあるかな？アフリカやアジアで子どもたちが片道何時間もかけて学校に通う様子を撮ったドキュメンタリーなんだ。途中で猛獣に出くわしたり、車椅子に乗った兄弟を水たまりとかも必死で超えて押して歩いたりして通学する子どもたち。彼らは何故そこまでして学校に通うんだろうね。

この映画のタイトルを初めて聞いた時、私は『世界の果て』っていう表現は違うんじゃないかと思ったんだ。これって先進国中心に考えてないかい？被写体の彼らにとっては、彼らが世界の中心なんだよ。そして日本に住んでる私たちから見たらとても困難なことがきつと彼らには普通のことなんだろう。そうするしか学校へ行くすべがないんだもん。

きつと彼らは学校で学べることがすごく幸せなんだろう。

みんなは、住む家があってご飯が食べられて通う学校がある。これってもしかしたら当たり前のことじゃないんじゃないかい？

自分にはどれだけ幸せがあるのか、夏休みに考えてみてほしいなあ。

## 看護師になるための実習で…

大学3年の時小児科の実習で、ある小学1年生の男の子を受け持たせていただいた。彼は個室のクリーンルームに入院していた。クリーンルームは室内の圧が高くなって、外からの病原体とかが入らないようになってる部屋のこと。抗がん剤で頭髪はなかった。彼の病名は白血病。小学生のお兄ちゃんから骨髄移植を受ける予定になっていた。1か月の実習が終わり、他の病棟の実習になったけど、また会いたくってお見舞いに行った。でも彼の病室に名前はもう無かった。泣きながら自転車をこいだ。仲良くなった患者さん亡くなるのはつらすぎるよ…。